

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



収穫期の管理

農業経営支援課 渡辺彰人

落水時期を適切に

落水時期の目安は、概ね刈取り7日～5日前とします。**早期落水による極端な土壌の乾燥は、胴割米の原因となりますので注意してください。**

収穫適期の判断

収穫は、ほ場ごと充分に観察し、適期刈取りを心がけましょう。**緑色のモミが5～10%まで減ったところが収穫適期です。**緑色のモミが半減するのに要する日数は、9月中旬までは5日、9月下旬以降は7日です。収穫が適期より早すぎた場合には未熟米が、収穫が適期より遅すぎた場合には胴割米が発生しやすくなります。出穂から収穫時期までの日数の目安は以下の通りです。

- ・コシヒカリ 35日前後
- ・きぬむすめ 40日前後
- ・あいちのかおりSBL 45日前後

コンバインで収穫する際は、雨天の直後や早朝の作業を避けてください。イネに水滴が付着していると、脱穀や選別性能が落ち、収量に損失が生じます。

収穫後の管理

収穫は乾燥機の乾燥能力に合わせて計画的に行い、収穫したモミは速やかに乾燥作業を済ませましょう。生モミを長時間積んでおくと、着色粒や斑点米（ヤケ米）などの発生原因になります。

モミを乾燥する場合はすぐに点火せず5～6時間の通風循環を行い、乾燥機への投入量は6～7割に抑えるなどの乾燥ムラ対策をしましょう。

出穂後の高温や刈遅れなどにより胴割れが予想される場合は、日中は常温で通風乾燥し、点火した場合も水分の減少を毎時0.5%以下となるようゆっくり乾燥させてください。水分量は14%が目安です。**営農経済センターでは、水分計で実際の水分量の測定ができますので、ご相談ください。**